

急性腎障害の発症予防を目指した 新規治療戦略

福井大学学術研究院医学系部門
腎臓病態内科学分野

教授 岩野 正之

従来技術とその問題点

急性腎障害の予防薬および治療薬として、N-acetylcysteine、hANP、アスコルビン酸などが検討されているが、有効性が証明されていない。

生理食塩水以外に臨床現場で使用されている薬剤は皆無である。

新技術の特徴・従来技術との比較

- 分泌型FSP1は、抗酸化能や抗アポトーシス効果を有しており、尿細管上皮細胞を各種の障害因子から保護する可能性がある。
- 急性腎障害の新しい予防薬になる可能性がある。
- 副作用については不明である。

想定される用途

- 急性腎障害を誘発する可能性がある治療（抗がん剤投与など）や検査（造影剤を用いる心臓カテーテル検査や造影CT）を行う前に投与することで、急性腎障害の発症を予防できる可能性がある。

実用化に向けた課題

- *In vivo*での効果を検討するには、大量のリコンビナント蛋白を作製しなければならない。
- *In vivo*での発現を誘導する化合物を作製するには、Chemical Biologyの技術が必要である。

企業への期待

- 大量にリコンビナント蛋白を作製可能である企業、Chemical Biology の技術を有する企業との共同研究を希望。

本技術に関する知的財産権

- 発明の名称 : 抗酸化剤および腎障害処置剤
- 出願番号 : 特願2017-055092
- 出願人 : 国立大学法人福井大学
- 発明者 : 岩野正之、横井靖二、木村秀樹

産学連携の経歴

- 2010年 JST A stepに採択
- 2012年から DSファーマバイオメディカル社と共同研究 (FSP1測定キットの開発)

お問い合わせ先

国立大学法人福井大学 産学連携本部
コーディネータ 佐治 栄治

TEL 0776-27-8956 (内線2896)

FAX 0776-27-8955

e-mail e-saji@u-fukui.ac.jp